



ワタミ株式会社

東京都大田区羽田一丁目1番3号 (〒144-0043)

TEL : 03-5737-2814 / FAX : 03-5737-2719

ワタミふれあいホームページ : <http://www.watami.co.jp>



この報告書の印刷工程で使用した電力量(100kWh)は、自然エネルギーでまかなわれています。

DNP201910-5



# ワタミ環境レポート2019



会社概要 (2019年3月期)

ワタミ株式会社  
 本社所在地：東京都大田区羽田一丁目1番3号 (〒144-0043)  
 創 業：昭和59年4月  
 設 立：昭和61年5月  
 売 上 高：94,701百万円(連結)  
 資 本 金：4,410百万円  
 事 業 内 容：国内外食事業、海外外食事業、宅食事業、農業、環境事業  
 社 員 数：2,619人(グループ計)

企業情報

経営理念、会社概要、沿革・歴史等はワタミ株式会社の公式ホームページの企業情報をご確認ください。  
 企 業 情 報：https://www.watami.co.jp/corporate/  
 グループ事業：https://www.watami.co.jp/group/

編集方針

本レポートは、ワタミグループが取り組んでいる環境活動について報告しています。ワタミグループの環境に関連する取り組みを開示することにより、多くのステークホルダーの皆さまと情報を共有し、持続可能な社会につながればと考えております。

報告の対象範囲ほか

対象組織：ワタミグループの海外事業を除く国内  
 全社・全部門  
 対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日  
 一部、最新の情報を記載しております  
 発 行：2019年10月

ワタミ環境宣言 2008

美しい地球を美しいままに、子どもたちに残していく。  
 ご先祖様と未来の子どもたちに恥ずかしくない行動をする。  
 私たちは、「一人ひとりの意識と行動が変わらなくては明日の地球の現実は何も変わらない」ことを心に留め、  
 当たり前前を当たり前前に徹底してやり抜くことで、現実を変えていきます。

地球で事業活動を営む企業の責任として、  
 その存在ゆえに生じる環境負荷を少しでも小さくする。  
 ～地球の邪魔をしない存在となる～

環境活動が経済活動であることを証明して、他の企業を啓発する。

グループの成長に伴い

増え続ける国内外の従業員を介して「環境」に働きかける。

その一人ひとりが生活の中で、常に「環境」を意識し、実質的に明日の地球の現実を変えていくための行動をとる。

ワタミ環境宣言  
 (1999年策定・2008年更新)

ワタミグループは、1999年に、外食産業で初めてISO14001を本社とグループ外食店舗全店で取得するとともに、「ワタミ環境宣言」を発表しました。2008年には、事業活動の広がりを受け、グループ連結で活動を強化する宣言として、改めて「ワタミ環境宣言」を策定し、その実現を目指して環境活動に取り組んでいます。

持続可能な社会を目指して  
 ワタミグループの主な環境活動



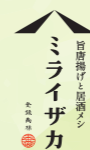
グループスローガン

地球上で一番たくさんの  
 “ありがとう”を集めるグループになろう

ワタミグループがその事業に参入してくれてよかったと言ってもらえるように、「人」と「人」がふれあう、あらゆる場面で、“ありがとう”を集めます。様々な社会貢献型ビジネスをグループで展開し、ステークホルダーの皆様から、感謝と信頼を集め続けることを目指します。

ワタミグループの事業

外食事業 (国内) **480** 店舗  
※ Guam含む  
 ※ 2019年3月時点



宅食事業 **510** 拠点  
営業所

調理済商品の  
 平日1日あたりのお届け数  
**226,554** 食  
※ 2019年3月時点



外食事業 (海外) **48** 店舗 **7** 地域  
※ 2019年3月時点



農業 **630** ha **11** 力所  
直営農場・牧場  
 (有機認証圃場は175ha)  
 ※ 2019年3月時点



環境事業 風車1号機2018年度の発電総量  
**4,606,831** kWh  
※ 2019年3月時点



森林事業 **316** ha  
森林管理面積  
 ※ 2019年7月時点





代表取締役会長  
兼 グループCEO  
渡邊 美樹

代表取締役社長  
兼 COO  
清水 邦晃

## トップインタビュー

# 100年企業へ向かって SDGs & 社員の幸せ日本一への挑戦

35周年を迎えたワタミグループ。9月27日には渡邊美樹が代表取締役会長兼グループCEOに就任しました。代表取締役社長兼COO清水邦晃とともに、持続可能な社会づくりを推進していきます。100年企業の実現に向け、現在の思いを語りました。

## 「SDGs日本一」に向けた思い

**渡邊** ワタミグループのミッションは「地球人類の人間性向上のためのよりよい環境をつくり、よりよいきっかけを提供すること」です。人間は成長し、幸せになるために生まれてきました。その環境やきっかけを提供するというワタミの理念は、SDGsの概念と合致します。

SDGsの基本的な考えは「一人も取り残さない」ということ。地球上に生まれた人々がきちんとご飯を食べ、勉強し、仕事して、成長できる社会をつくる。そのために国と国、企業と企業が力を合わせようという考えです。ワタミグループは、事業活動を通してSDGsの考えを実行していきます。SDGsには17の目標がありますが、細目として169ものターゲットがあります。それらを追っていくと、ワタミがこれまで取り組んできたものばかりです。ワタミの活動にSDGsが重なることが多く私たちが「SDGs日本一」の企業を目指して活動するのは、ごく自然なことだと考えています。

ワタミグループはRE100に加盟する企業です。中長期の目

標として、2040年までに事業活動で消費するエネルギーを100%再生可能エネルギーにするという目標を掲げています。「夢に日付」を入れなければ、今日の現実や行動は変わりません。2040年までの具体的なストーリーを描き、私たちは必ずRE100に加盟する企業として目標を達成します。

**清水** 今年度の具体的な活動として、外食店舗の「三代目鳥メロ」笹塚店は再生可能エネルギー100%で店舗営業をしています。笹塚店はもともと、居食屋「和民」の1号店として誕生したお店です。そのお店ををグループの食品工場にある太陽光パネルで発電したエネルギーで営業するのは、環境に対するワタミグループの決意表明でもあります。今後も再生可能エネルギー100%の外食店舗を増やしていきます。

宅食事業においては「容器のリサイクルモデル」に取り組んでいます。再生可能な植物由来のバイオマスプラスチック容器を採用。この技術を取り入れることが可能なお弁当・お惣菜を

つくっている愛知県の食品工場から、完全リサイクルに向けた取り組みを始めています。

また、持続可能な社会づくりを推進し、お客様の安全・安心への思いに応えるため、ワタミグループは今後も有機農業に取り組んでいきます。そのために、私たちは全国各地の生産者の方々と連携し、それぞれの地域に根ざした有機農業を発展させ、未来につないでいきたいと考えています。有機の食材を使い、安全・安心な工程で商品をつくる。このワタミモデルを推進してまいります。

## 「社員の幸せ日本一」に向けた思い

**渡邊** ワタミグループは、未来の子どもたちを大切に「美しい地球を美しいままに、子どもたちに残していく(ワタミ環境宣言)」理念があります。未来の子どもたちはもちろんのこと、より近くにいる社員たちを幸せにすることも大切です。SDGsと同レベル、同じ基準で「社員の幸せ日本一」を目指します。



千葉県山武市にある日向の森で開催される「植樹祭」には、社員と一緒に参加

## 100年企業に向けて

**渡邊** これからも、ワタミグループは社会課題を解決するためのビジネスを展開していきます。事業活動そのものが社会課題を解決する。たとえば間伐材をチップにし、自然エネルギーをつくることで林業をしながら森を再生する。荒れた農地で有機農業を行い、豊かな水田や畑の景色をもとに戻す。毎日健康に配慮したお弁当・お惣菜を提供することで、一人暮らしの高齢者の生活をよりよくする。このように社会課題を解決しながら収益を上げていくのが私たちの使命です。このテーマを追い続けることで、ワタミグループは100年企業となることできるのだと思います。

そして、未来の子どもたちや家族のため、コミュニケーションの場を提供します。スマートフォンなどのテクノロジーが進化したことにより、直接の会話によるコミュニケーションが希薄になりがちです。人間にとって大切なのは同じ空間で顔を突き合わせて食事し、語り合うことです。食を通してふれあえる、家族を意識した業態をつくっていきます。

社員の幸せを実現するため、10月から「社員の幸せ実現会議」を立ち上げました。同時に社員の幸せの基準となる7項目を決めました。

ワタミという会社は、いい意味でとてもお節的な会社です。会議は私の直轄で行い、7つの項目の達成目標を設定し、行動し、具現化していきます。SDGsやRE100と同様に、具体的な数字目標を立て、社員の幸せ日本一を実現します。

**清水** 私は社長に就任して以来、社員が働くことに生きがいとやりがいを感じ、会社における自分の価値を見出すことができるよう、様々な施策を行ってきました。営業時間の見直しや、システム化による業務負荷の低減などに取り組み、その結果、労働環境が整い、社員に明るさが戻りました。

時代とともに、社員の求めるものは多様性を増しましたが、「社員の幸せ日本一」を追い続けることで、社員も会社も成長できるはず。今後も社員に寄り添い、ともに歩み続けていきます。



## 最後に伝えたいメッセージ

**渡邊** ワタミグループは、Save Earth Foundation(以下、SEF)という公益財団法人を支援しています。SEFには大きな仕事があり、ひとつは森林の保全。SEFは思いを同じくする他の事業者などとも連携しながら、より大きな全国規模の活動となることを目指しています。

もうひとつは、全国の小売業、外食のお店と連携し、ネットワークをつくることです。現在、SEFは4,000を超える事業所と提携しています。このネットワークを活用し、たとえば廃棄物を共同で出すことで輸送コストを下げる。プラスチックを共同で管理し、リサイクルしていく。このようにパートナーシップを推進しながら、環境や社会と向き合っていきます。

これからのワタミグループは他者・他社とのパートナーシップにより、1+1が3にも4にもなる事業を求めていきます。SDGsに対する思い、社会に対する思い。それらの思いを共有できるパートナーと手を携えながら前進していきたい、そう強く思っています。

# SDGs (Sustainable Development Goals)

～世界で目指す17の目標と169のターゲット～



## SDGsでワタミグループは地球を守る。 そして、地球上で一番たくさんのありがとうを集めるグループを目指します。

21世紀が始まり20年、地球は人間の活動が原因とされる気候変動や自然破壊が大きな問題になっています。また、途上国では貧困や食料・衛生問題などが未だ解決されない中で、先進国の資源や安価な労働力供給のために、人権問題や環境破壊が起り、世界的な大企業が糾弾されています。このままでは、地球は持続可能が難しくなっています。地球が持続可能であるために、2015年に国連サミットでSDGsが採択され、世界中の193カ国が参加しました。SDGsは環境問題だけでなく、貧困や飢餓・人権や労働問題等、世界中の問題を17

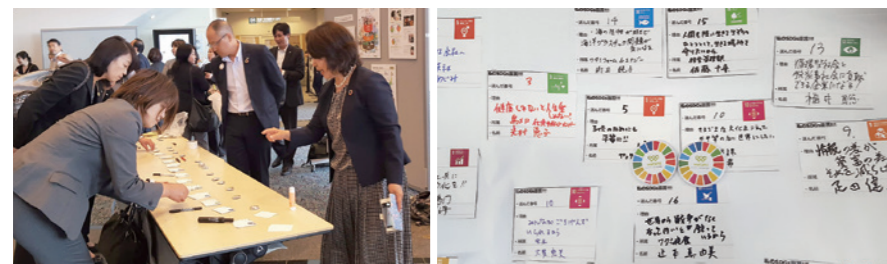
の目標にして、目標達成のために国だけではなく、企業や自治体・個人が関わり、取り組んでいます。ワタミグループは従来より、「地球人類の人間性向上のためのよりよい環境をつくり、よりよいきっかけを提供すること」と、社会において果たしていくべき使命と役割を理念に明記しています。それは、SDGsを実践することにつながり、その活動を通じて「地球上で一番たくさんのありがとうを集めるグループになる」を目指していきます。

## 「だれ一人取り残さない、そして全員参加」でSDGsに取り組む

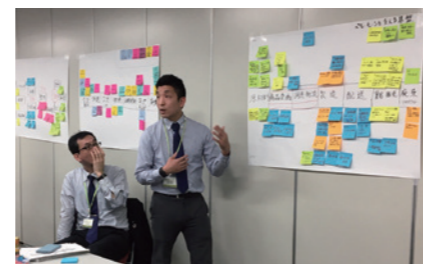
### SDGs推進本部を設立

2018年からワタミグループでは、企業理念を具現化するためにSDGsを啓発してきましたが、さらに本業の中でSDGsを実現するために、2019年4月よりSDGs推進本部を設立しました。SDGs推進本部の目的はワタミグループの全従業員

がSDGsを理解し実現するための啓発と共に、事業活動の中でSDGsを実践するためのタスクフォースチームの結成と、その活動支援となります。さらに、バリューチェーンを構成するステークホルダーも含めたSDGs推進活動です。



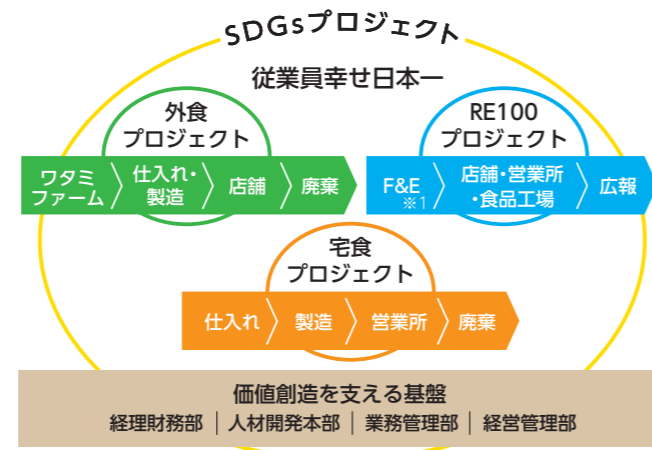
創業記念祭で、個人目標の「SDGs宣言」を記入、宣言者には缶バッジを配布



SDGs「タスクフォースミーティング」

### 本業の中でSDGsに取り組むために タスクフォースチームを結成

SDGsを達成する上では、縦割りの人的交流に横串を通し、本業の課題解決を柔軟に取り組むことが必要のため、タスクフォースチームを結成しました。タスクフォースチームは基本的な知識や情報の共有化を図るために、外部講師からの講義やワークショップ、スコープ3の計算演習などを受講し、基盤づくりを行ってきました。また、SDGs推進本部は、タスクフォースのメンバーの所属する事業部本部長と面談し、中期経営計画にSDGs目標達成を組み込むことを確認しました。



## タスクフォースチームで進めるプロジェクト



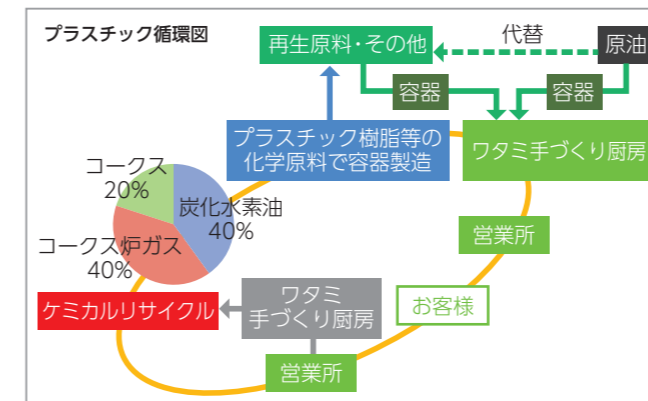
低炭素社会を目指して 循環型社会を目指して

### アウトサイドインアプローチで「宅食容器 プロジェクト」… プラスチック海洋汚染防止

「ワタミの宅食」では、毎日22万食(2019年3月時点)を全国にお届けしています。「まごころスタッフ」が商品をご自宅にお届けする特性を生かし、地域・行政と連携し、「地域を見守る」取り組みに協力しています。

従来、宅食事業に使用する弁当容器はリターンブル<sup>※1</sup>で、配達と同時に使用済み容器を回収し、工場に運搬して洗浄後、再び弁当容器として使用してました。この容器回収再利用のシステムでは、衛生基準と地球環境負荷に関する課題(運搬・洗浄に多くのエネルギーを使いCO<sub>2</sub>を排出)がありました。そこで、ワタミではワンウェイ<sup>※2</sup>容器に変更し、容器の再利用を廃止することにしました。

ところがワンウェイ容器に変えることで、衛生レベルの向上と洗浄等のエネルギーによる環境負荷は低減できますが、使用済み



自然共生社会を目指して

### バリューチェーンでつなぐ 「朝採れロメインレタス プロジェクト」



持続可能な安全・安心な食品をお客様にお届けするため、グループ農場のワタミファームで有機野菜を生産しています。ただ、お客様への有機野菜の普及・啓蒙が完全ではないことが課題としてありました。そこで、バリューチェーンで課題解決する「朝採れロメインレタスプロジェクト」を立ち上げました。長野県東御市で生産した有機ロメインレタスを朝収穫し、物流を変更することで収穫当日から最短で約半日<sup>※1</sup>というスピードで東京都と埼玉県の46店舗へお届けしています。

※1 早朝7時に収穫したものが最も早い店舗で14時に店舗へ到着



「和民」[坐・和民]で提供しているメニュー「まんま有機ロメインレタス」(左)と「特製つくねと有機ロメインレタスのしゃぶしゃぶ鍋」(右)

弁当容器をプラスチック廃棄物として扱っていると、地域社会へ環境負荷が増大し、「プラスチック海洋汚染」の原因になる可能性が出てきます。そこで、ワンウェイ容器でも従来からの容器回収を継続し、ケミカルリサイクルによる資源の再利用に取り組むことにしました。更に容器は、バイオマスプラスチックを含有し、地域によってケミカルリサイクルが難しい場合は、熱回収でもCO<sub>2</sub>の発生を石油由来プラスチック容器より抑えられるものを採用しました。

自社の課題解決だけではなく、地域社会・地球環境の課題を企業活動の中で解決すること、これはSDGsの「アウトサイドイン アプローチ」であると考えます。

現在、この容器回収リサイクルシステムは、「ワタミ手づくり厨房(食品工場)」中京センター(愛知県津島市)からスタートし、2021年度中には全国に展開する計画です。

また中京センターでは、未利用資源を鶏の飼料化にし、その鶏が産んだ卵をマヨネーズに加工する食品リサイクルループをスタートしています。

※1 繰り返し使用 ※2 1回だけ使うことを目的としてつくられた



バイオマスプラスチックを含んだ容器



お客様より回収された容器がケミカルリサイクル施設へ搬入

低炭素社会を目指して

### 再生可能エネルギー100%を 「鳥メロ」笹塚店で実施 「RE100 プロジェクト」



ワタミグループは事業活動で消費する電力を100%再生可能エネルギーで調達することを目標に掲げる企業が参加する「RE100」に加盟し、2040年までにRE100宣言を約束しています。

従来は食品工場などの大型施設や本社での導入を図っていましたが、お客様や従業員にも環境やエネルギー問題について考えていただくために外食店舗での実施を始めました。



RE100をテーマにしたスタッフシャツ

## エコ・ファーストの約束の進捗状況

ワタミグループは、1999年に外食産業で初めてISO14001認証を取得するとともに、「ワタミ環境宣言～美しい地球を美しいままに、子どもたちに残してあげたい～」を発表しました。2009年には「ワタミ環境宣言」を実現するための長期的な目標として「W-ECOビジョン2020」を策定し、2020年までにグループ全体の環境負荷(CO<sub>2</sub>)を50%削減(2008年度比、

売上高当り)するという方針を掲げ、環境と経済の両立に取り組んできました。そのような環境への姿勢と取り組みが評価され、2010年5月、環境大臣から「エコ・ファースト企業」の認定を受け現在に至っています。9年間の歩みを振り返り、SDGsを達成をするための、新しいエコ・ファーストの約束へと進化させていきます。

2010年5月 認定	2017年10月 更新	2019年8月 進捗と今後の方向性
<b>1:事業活動における環境負荷の低減</b>		
<p>目標：グループCO<sub>2</sub>排出量▲50% (2008年度比/売上高当り)</p> <p><b>主な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 外食店舗にて電気使用量の見える化システム導入</li> <li>● 外食店舗にLED照明を導入</li> </ul>  <p>2013年当時、使用電力量をチェックする様子</p>	<p>目標：グループCO<sub>2</sub>排出量▲50% (2008年度比/売上高当り)</p> <p><b>主な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 再生可能エネルギーの普及</li> <li>● 有機農業、森林事業によるCO<sub>2</sub>吸収</li> </ul>  <p>2012年に秋田県にて風車を稼働させました</p>	<p>進捗：グループCO<sub>2</sub>排出量▲69% (2008年度比/売上高当り)</p> <p><b>振り返り</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業規模や領域の変化への対応が遅れた</li> </ul> <p><b>今後の方向性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● サプライチェーン全体で温室効果ガス発生量を把握し、協働で低炭素社会構築に貢献する</li> </ul> <p>10ページ</p>
<b>2:循環型社会構築のための環境改善事業強化</b>		
<p>目標：再生利用等実施率50%</p> <p><b>主な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 6次産業モデル(生産・加工・販売)による自社循環の構築</li> </ul>  <p>1次産業を担うワタミファーム</p>	<p>目標：再生利用等実施率60%</p> <p><b>主な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 食品リサイクルの取り組みとして山武土づくりセンターの活用</li> </ul> 	<p>進捗：再生利用等実施率67.6%</p> <p><b>振り返り</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 食品リサイクルはループ化することが課題</li> </ul> <p><b>今後の方向性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 社内外と協働で食品とプラスチックのリサイクルループを構築し、循環型社会構築に貢献する</li> </ul> <p>6ページ</p>
<b>3:グループ社員の環境意識の向上</b>		
<p>目標：社員の生活排出CO<sub>2</sub>▲10%</p> <p><b>主な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 社員の生活のCO<sub>2</sub>排出量を記録する「エコ夢カード」を全社員に配布</li> </ul>  <p>グループ全社員に、日々の生活でのCO<sub>2</sub>排出量(電気、ガス、ガソリン)を毎月入力するよう呼びかけ。</p>	<p>目標：社員の生活排出CO<sub>2</sub>▲30%</p> <p><b>主な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 効率的に社員のCO<sub>2</sub>排出量を把握するための環境家計簿「エコ夢サイト」を活用</li> </ul>	<p>進捗：計測終了</p> <p><b>振り返り</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 社員の環境意識向上</li> </ul> <p><b>今後の方向性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 今後の社会環境課題である、自然共生社会構築への貢献に協働で取り組む</li> </ul> <p>11・12ページ</p>
<b>4:森林保全などの環境活動に取り組む地域やNPOの活動を応援する</b>		
<p><b>主な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 森林保全活動を促進する</li> <li>● 寄附カクテルを販売し活動を応援する</li> </ul>  <p>写真は2013年当時、外食店舗で販売していた森林再生事業へ寄附するカクテル</p>	<p><b>主な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 森林保全活動を促進する</li> <li>● 「北海道わたり自然学校」を通して、将来を担う子どもたちへの環境教育に努める</li> </ul>	<p><b>振り返り</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 森林保全活動は2006年より13年間継続して実施</li> <li>● 北海道わたり自然学校は1999年より21年間継続して開催</li> </ul> <p><b>今後の方向性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 社内外との連携を図り、SDGsを社内外に浸透させ、環境教育に努める</li> </ul> <p>6ページ</p>

## 新しいエコ・ファーストの約束

エコ・ファーストの約束にSDGsを取り入れることを社内外に公表するために、2019年10月に新しいエコ・ファーストの約束を更新いたします。また食の総合企業として、お客様・地域

の方々、行政機関、お取引先様、従業員と一緒に持続可能な社会を目指すために、ワタミグループではSDGsを経営の中核課題に取り入れた中期経営計画を策定します。



### エコ・ファーストの約束

～環境先進企業として持続可能な社会構築に取り組む～

環境大臣 原田 義昭 殿

令和元年10月吉日  
ワタミ株式会社  
代表取締役社長 清水 邦晃

#### 美しい地球を美しいままに、子どもたちに残していく

ワタミグループは、事業活動(外食事業・宅食事業・食品製造事業・農業・林業・エネルギー事業)において地球環境保全を果すために、環境法令遵守および環境負荷の低減を図ります。また、持続可能な社会構築を実現するために、SDGsを本業の中で実践し、エコ・ファーストの約束を達成します。

**1. 低炭素社会の実現に向け、省エネ・再生エネルギーの導入・環境負荷低減を推進します。**

- 2040年までにRE100を達成します。  
・食品製造工場、外食事業店舗、宅食事業営業所、本社事務所で再生可能エネルギーの導入を推進します。
- 施設の設備改善や省エネルギー活動に努め、事業活動におけるCO<sub>2</sub>排出量を削減します。
- 有機農業および森林事業を拡大し、CO<sub>2</sub>吸収効果拡大を推進します。  
・2024年までに農業事業においてCO<sub>2</sub>吸収効果4,200t-CO<sub>2</sub>相当(400ha)、森林事業において吸収効果8,400t-CO<sub>2</sub>相当(1,000ha)を達成します。
- サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量を算定し(Scope1・2・3)、低炭素社会の実現を目指します。

**2. 循環型社会の実現に向け、廃棄物の発生抑制と資源循環を推進します。**

- 食品リサイクルを適正かつ積極的に推進します。  
・2024年までに食品製造事業(ワタミ手づくり厨房)を中心とした地域において、各地域のリサイクル事業者・生産者と連携し、食品リサイクルループを構築します。  
・食品リサイクルを強化し、外食事業では60%、食品製造事業では100%の再生利用等実施率を達成します。  
・食品ロス削減を目指し、外食事業においてはお客様とのコミュニケーションを図り、2030年までに50%削減を目指します。
- 宅食事業ではエコ容器を使用し、使用済み容器の回収リサイクルによる資源循環を実施します。  
・2024年までに全ての弁当容器にエコ容器(バイオマスプラスチック含有10%以上を使用した容器)を採用します。  
・お客様から使用済み容器を回収し、容器原料として使用する「使用済み容器リサイクルループ」を構築します。
- リターナブルペンのリユースを継続します。

**3. 自然共生社会の実現に向け、生物多様性保全活動を推進します。**

- 有機農業に取り組むことで、土壌の保全と生態系を守ります。  
・2024年までに農業事業で有機農地400haへ拡大します。  
・農業事業で生産された有機農産物を外食事業でお客様へ提供し、その有機・特別栽培食材比率を60%にします。
- 森林の持続可能な経営に関与し、劣化した森林を回復させ、山地生態系の保全を図ります。  
・2024年までに森林事業(森林経営計画に基づく)を1,000haへ拡大します。

**4. 持続可能な社会の構築を目指し、社内外でSDGs達成のための教育を推進します。**

- 全従業員に、ESD(SDGsを達成するための人材教育)を年7回実施します。  
・事業活動においては関係する取引先、お客様、地域社会とパートナーシップでSDGsの達成を目指します。
- 社会貢献や森林保全活動に取り組むため、ボランティア活動や「ワタミの森づくり」の活動を促し、社会貢献・森林保全活動に取り組む公益団体(NPO法人等)と連携を図りながら、毎年2,000名以上の参加を目指します。
- 小学生を対象として実施している北海道わたり自然学校やワタミファームでの環境教育・食育活動など、将来を担う子どもたちへのESDに努めます。

ワタミグループは、上記の取り組みの進捗状況を確認し、その結果について定期的に公表するとともに、環境省へ報告します。



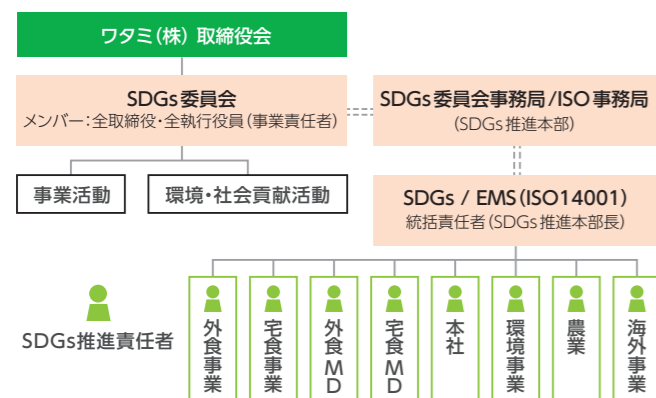
※2019年9月30日現在、環境省と更新を進めています。

ワタミグループは事業活動を進めていく中で、地球環境やたくさんの人々の暮らしに様々な影響を及ぼしています。「地球上で事業活動を営む企業の責任として、その存在ゆえに生じる環境負荷を少しでも小さくする(地球の邪魔をしない存在となる)」という環境への考え方のもと、ISO14001環境マネジメントシステムを用い、「法令遵守・環境汚染防止、持続的な改善」に努めています。

## 推進体制

ワタミグループでは、部門ごとにSDGs推進責任者を置き、環境活動に取り組んでいます。2018年10月に新設されたSDGs推進本部にISO14001の事務局を設置し、各部門の環境マネジメントが適正に稼働しているか確認しています。

更に、サステイナブルな視点で環境・社会・経済の3つの側面をバリューチェーン全体で把握することで、今後取り組むべきリスクと機会を明らかにし、持続可能な事業活動を行ってまいります。



## サステイナブルマネジメントシステムへ

ワタミグループは、食の総合企業として、お客様に安全・安心で価値の高い商品を提供するために、食品工場の運営や有機農業による原材料の生産に取り組み、グループでのつながりの中で事業を展開するビジネスモデル(=ワタミモデル)に挑戦しています。

地球全体を俯瞰して捉え、持続可能なビジネスモデルを追及することは、ワタミグループのミッションであり、経営目的そのものです。今後、SDGsの指標を経営に取り込み、社内外へのコミットと、長年取り組んできたISO14001をベースとしたPDCAサイクルで、SDGsに日本一取り組む企業を目指します。

SDGsを推進していくため、2030年の世界が目指す社会と、ワタミグループのあるべき姿をイメージし、バックキャストとアウトサイドインアプローチで計画を立案、それをSDGs委員会で提言し、SDGs会議でマネジメントレビューを行ってまいります。

- P** サステイナブルな側面と影響を評価し実施計画を作成
- D** 各部門が計画を遂行
- C** SDGs委員会・会議で進捗状況の共有と課題の解決を図る (月1回開催)
- A** 適宜計画や目標を修正

## 認証審査

2018年度もISO14001の認証を更新することができ、ワタミグループ全体の環境マネジメントシステムが適正に稼働していることが確認されました。

JQA登録証



### 審査機関からの総評

- 内部監査  
規格の要求事項および対象組織の網羅性が見えにくい運用となっています。監査項目の網羅性、適切性を確認いただきパフォーマンスの有効性向上に寄与する監査へと運用効果を高められることを期待します。
- 遵守義務関連  
法規制の網羅性と情報の最新化、および担当者の認識を確実にすることに改善の余地が見られました。RE100やエコ・ファーストの約束などを、「その他の要求事項」として特定されることも併せて考慮ください。

### SDGコンパス

#### ステップ1: SDGsを理解する

- SDGsとは何か
- 企業がSDGsを利用する理論的根拠
- 企業の基本的責任

#### ステップ2: 優先課題を決定する

- バリューチェーンをマッピングし、影響領域を特定する
- 指標を選択し、データを収集する
- 優先課題を決定する

#### ステップ3: 目標を設定する

- 目標範囲を設定し、KPIを選択する
- ベースラインを設定し、目標タイプを選択する
- 意欲度を設定する
- SDGsへのコミットメントを公表する

#### ステップ4: 経営へ統合する

- 持続可能な目標を企業に定着させる
- 全ての部門に持続可能性を組み込む
- パートナリシップに取り組む

#### ステップ5: 報告とコミュニケーションを行う

- 効果的な報告とコミュニケーションを行う
- SDGs達成度についてコミュニケーションを行う

### ISO14001

- 1 適用範囲
- 4.1 組織及び組織の状況の理解
- 4.2 利害関係者のニーズ及び期待の理解
- 4.3 EMSの適用範囲の決定
- 6.1 リスク及び機会への取り組み
- 6.1.4 取り組みの計画策定
- 6.2 環境目標及びそれを達成するための計画策定
- 7.4 コミュニケーション
- 9.1 監視、測定、分析及び評価
- 5.1 リーダーシップ及びコミットメント
- 6.1.4 取り組みの計画策定
- 7.3 認識
- 5.3 組織の役割、責任及び権限
- 7.4 コミュニケーション
- 8.1 運用の計画及び管理
- 7.4 コミュニケーション
- 8.1 運用の計画及び管理
- 9.1 監視、測定、分析及び評価

参照:日経ESG(2018.7月号)

## 事業活動による環境負荷

ワタミグループは事業活動を進めていく中で、地球環境やたくさんの人々の暮らしに様々な影響を及ぼしているため、環境負荷を低減する取り組みを行っています。グループの事業活動の中で環境負荷の大きな原因は、外食店舗及び食品工場の照明や空調・冷蔵設備などの電気エネルギーの使用です。これらのエネルギーは地球温暖化の原因といわれるCO<sub>2</sub>を排出するので、LED化を進めることによる使用量の削減(設備改善)や、空調機器の温度設定やスイッチングなどの省エネルギー活動(運用改善)に取り組んでいます。次いで廃棄物に関しても環境負荷が大きい

### 2018年度ワタミグループマテリアルフロー

項目	単位	2018年度							合計	CO <sub>2</sub> 排出量 (t-CO <sub>2</sub> )
		農業	食品工場	外食店舗	宅食営業所	本社	輸送	0		
INPUT	電気	千kWh	59	15,637	48,537	13,902	544	0	78,680	79,635
	ガス	千m <sup>3</sup>	0	1,500	3,770	8	4	0	5,282	
	LPG	t	0	1,725	0	0	0	0	1,725	
	CNG	km <sup>3</sup>	0	0	0	0	0	0	0	
	軽油	kl	12	0	0	0	0	3,359	3,371	
	ガソリン	kl	13	0	0	0	0	0	13	
	水	千m <sup>3</sup>	0	296	897	76	5	0	1,274	
OUTPUT	可燃・不燃	t	4	1,527	4,269	348	10	0	6,158	3,985
	リサイクル	t	0	3,303	1,856	144	24	0	5,327	

ため、今後さらに発生抑制とリサイクルの向上に努めます。省エネルギー活動と廃棄物発生抑制によりコストを抑え、再生可能エネルギーの導入を目指し、エコ・ファースト企業として持続可能な社会を目指します。

## サプライチェーン排出量(スコープ1.2.3)の算定

ワタミグループは、サプライチェーンの上下流(原料調達から製造、物流、販売、廃棄等)にわたる事業活動に伴うGHG(温室効果ガス)排出量について、国際的なGHG算定・報告基準「GHGプロトコル」に準拠して算定を開始しました。2018年度は、国内事業と一部グループ会社\*1に範囲を限定し、概算での算定を開始しましたが、今後算定対象範囲を広げるとともに、優先的に削減に取り組むべき分野については詳細算定を行ってまいります。

\*1 国内のグループ会社内の、(有)ワタミファーム、ワタミファーム&エナジー(株)のみ含む。但し、上記2社はスコープ1.2範囲とする。

### 解説

スコープ1:事業者自らによるGHG(温室効果ガス)の直接排出(燃料の燃焼や工業プロセス等)  
スコープ2:他者から供給された電気・熱・蒸気の使用に伴う間接排出  
スコープ3:その他の間接排出(事業者の活動に関する他者の排出)

### 算定結果の総括

この度、(株)ウェストボックスからの業務支援を受け、スコープ1.2.3の排出量の概算値を把握しました。最も排出量が多い領域は、スコープ3のカテゴリ1(購入した製品・サービス)で73.6%を占めました。次に、スコープ2(他者から供給された電気・熱に伴う排出)、カテゴリ4(原材料に係る製品が自社に届くまでの物流)でした。これらの削減のためには、有機野菜等の活用、再生可能エネルギーの普及、近距離からの調達や物流改善等の対策が有効と考えています。今後も継続して、サプライチェーン全体でのGHG排出量を把握するとともに、排出削減活動に取り組めます。

## スコープ3を用いた影響の定量化と進捗評価

SDGsへの実践に向けて、ワタミグループがSDGs分野に与える影響をスコープ3を用いて定量化して把握し、取り組みの進捗を評価する仕組みを構築中です。

### 2018年度GHG排出量まとめ

2019年9月末時点暫定値

スコープ/カテゴリ	排出量 [t-CO <sub>2</sub> e]	割合(%) Scope1,2,3
サプライチェーン排出量	345,630	100.0%
スコープ1	14,481	4.2%
スコープ2(マーケット基準)	38,386	11.1%
カテゴリ1	254,310	73.6%
カテゴリ2	22	0.0%
カテゴリ3	5,819	1.7%
カテゴリ4	21,073	6.1%
カテゴリ5	3,912	1.1%
カテゴリ6	222	0.1%
カテゴリ7	3,168	0.9%
カテゴリ8	-	0.0%
カテゴリ9	-	0.0%
カテゴリ10	-	0.0%
カテゴリ11	-	0.0%
カテゴリ12	93	0.0%
カテゴリ13	-	0.0%
カテゴリ14	4,145	1.2%
カテゴリ15	-	0.0%
スコープ3	292,763	84.7%
その他	-	-
スコープ2(ロケーション基準)	40,111	-

### 定量化の例

ターゲット	課題	目標	定量化評価
13 気候変動への影響	化学燃料由来のプラスチック容器使用による気候変動への負の影響	バイオマスプラスチック容器の導入	スコープ3 カテゴリ1にて影響及び進捗を定量化評価



## 風力発電事業

ワタミグループのCO<sub>2</sub>削減と、日本で停滞している再生可能エネルギーの普及促進に寄与することを目的として、2012年に風力発電事業に参入し、秋田県にかほ市でワタミグループ第1号となるワタミの夢風車「風民(ふうみん)」を稼動しました。2013年には秋田県秋田市と由利本荘市で、2号機、3号機を稼動しました。

### 今後の課題 (RE100の実現に向けて)

ワタミグループは、事業活動で消費する電力を100%再生可能エネルギーで調達することを目標に掲げる企業が参加する「RE100(アールイー100)」\*1に加盟しました。これまで風力発電などによる再生可能エネルギーの発電にも取り組んでおり、今後は2040年までに事業活動で消費する電力を100%再生可能エネルギーにするという目標を掲げていきます。「RE100」への加盟は、日本の外食業界では初めてのことであります。

**RE 100**

(※1) RE100とは、再生可能エネルギー100%を目標に掲げる企業が加盟する国際イニシアチブです。再生可能エネルギーの使用は、企業にとってエネルギーコストの抑制だけでなく、CO<sub>2</sub>等の排出削減目標達成などへの寄与が見込めます。



## 電力小売事業

ワタミグループで取り組む風力発電や6カ所の食品工場の屋根に設置したソーラーで発電した再生可能エネルギーも含めた電力を、グループ内だけでなく、社外へも販売をしています。2016年4月から低圧電力の自由化にとまない、個人の家庭への販売も開始しました。

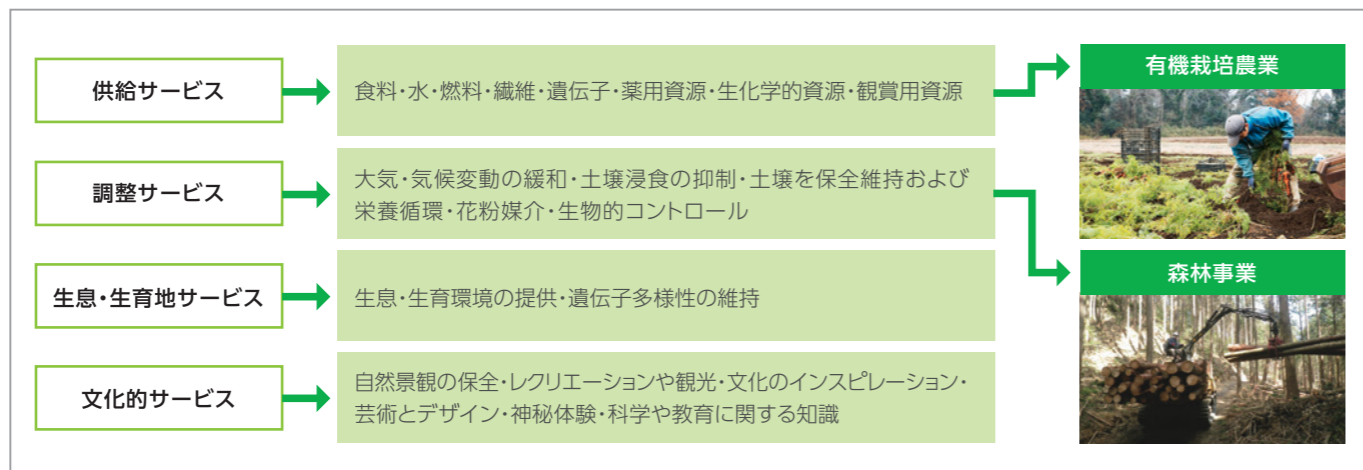
# 自然共生社会を目指す事業



地球の環境とそれを支える様々な生き物(生物多様性)は、つながり合っています。そして私たちの暮らしは食料や水、気候の安定など生物多様性からの「生態系サービス」から得られる恵みによって支えられています。

## 生物多様性を守る

私たちが生きるために必要な酸素をつくり出す森を保全する森林事業、私たちの食料を育む土壌、そして水。それらを守り自然を大切にして農畜産物を生産し、お客様に提供する有機農業をワタミグループは実践しています。



### ワタミグループの環境事業・農業の拠点



## 農業(ワタミファーム)



### 有機の土をつくり、有機の作物を育てる

ワタミファームは、北海道から九州まで全国11カ所・630haの自社農場で2,087t(2018年度出荷量総量)の野菜や畜産・加工品を生産しています。環境にも人にもやさしい食品を提供するために、2002年から有機農業を始め、有機栽培農地面積が175haの農業法人です。

2007年には国産初の有機畜産物(牛乳、鶏卵)、有機加工商品(チーズ、バター)農業JAS認証を取得しました。これらの農産物を外食店舗や家庭で手軽に食べていただくために、メニュー開発や加工品製造販売を行っています。また、農地や牧草地に、化成肥料や農薬を使用していないので、土壌汚染防止やCO<sub>2</sub>発生抑制に有効です。2030年には1,000haの農地面積拡大を目指しています。

#### 2018年作物収穫実績

ニンジン	90t
ダイコン	55t
レタス	133t
ショウガ	36t
キャベツ	23t
白菜	12t
鶏卵(養鶏)	42万個(2,000羽)
乳量(酪農飼育頭数)	1,108t(360頭)



ワタミファーム美幌峠牧場

## 森林事業



### 森を育て、循環型社会を実現する

ワタミファーム&エナジーは、地球環境保全と地域産業活性化を目的に2014年から、大分県白杵市とその周辺地域の316haで森林事業を行っています。そのCO<sub>2</sub>吸収効果は年間2,782tと算出しています。

森林事業では、森林管理と間伐(31.3ha)、主伐(9.8ha)による森林資源の活用を、地域の企業や専門作業を担う人々と協働することにより、地域産業振興に貢献しています。伐採した樹木は建築等に使用され、それ以外はバイオマス燃料として活用しています。2020年1月に、小型ガス化熱電供給設備(45kw)を導入し、建築用材として活用できないチップ材をエネルギー資源として活用する予定です。2030年までの目標は、白杵モデルの構築と3~5地域へ地域展開し、1,000haの森林事業を目指します。



大分県白杵の森林

ワタミグループの目指す持続可能な社会を実現するためには、従業員だけでなく、地域のお客様やお取引先様、次世代を生きる子どもたち、様々な人たちと一緒に取り組まなければなりません。ワタミグループはそうした人たちと一緒に「未来の地球を守るための環境教育」を行っています。

## SDGs啓発教育



ワタミグループはSDGsを「だれ一人取り残さない、そして全員参加」で取り組むために、従業員教育を定期的に実施しています。

## 農業研修



ワタミグループは食を通してお客様に、そして地球に貢献したいと考えています。新入社員は、農業生産の現場で「私たちは命をいただいて生きている」ことを学ぶことから始めます。



## ビジネスパートナーシップ会議



廃棄物運搬業やリサイクル・処理事業者、その他環境関連事業者の方たちと、毎年、環境法令や環境に関する現況を学ぶ機会を設けています。ワタミグループはこうした事業者とパートナーシップを組み、法令遵守・地域環境保全に貢献しています。



### 第21回北海道わたり自然学校 北海道美幌町

### 未来を生きる子どもたちにESD(持続可能な開発のための教育)

未来を生きる子どもたちに、自然を愛し大切にしたい思いを育て、そして夢をかなえる力を育むために、1998年から北海道わたり自然学校を開催し、今年で21回目になりました。開催地の美幌町にはワタミファーム美幌峠牧場があり、牧場体験を通して命のつながりを学びました。また、子どもたちの先生はワタミグループ全社から募集して選ばれた社員です。



4日間一緒に過ごした仲間たち



牧場で子牛にミルクをあげました



屈斜路湖カヌー競争でチームワークが固くなりました



川で生態系を壊す外来生物ウチダザリガニを捕獲



近くの畑で夕食のカレーの材料の収穫体験



報告会ではSDGsの取り組みも発表しました

私たちの役割はただ一つ、子どもたちの夢の種が大きく花開くのを見守ること。子どもたちが与えられた命のかぎり生きることを願って、自然学校を開催しています。

今年も小学校4年から6年の子どもたち36名は、北海道の豊かな自然と、酪農や農業体験、そして初めて出会った仲間たちとの友情を育み、将来の夢を持つことの大切さを学び、思い出をたくさんつくりました。

毎日の振り返りには、「今日のSDGs」を見つけてシールを張り、最終日の保護者への報告会では4日間のSDGsの取り組みについても発表しました。



#### ①命との出会い

- ・自分の生命は、他の生命の犠牲によって成り立っていることを学ぶ
- ・農作業を通して食卓に上がるまでには多くの人の手がかかっていることを学ぶ
- ・自分を育ててくれている親の愛に感謝する

#### ②自然との出会い

- ・広大さ、神秘さ、美しさに触れて感動すること
- ・感動を通して環境について考える

#### ③友達との出会い

- ・自分が自分を大切に思っているように、隣の人も自分を大切に思っていることを知り、おもしろいやりを持つことを知る
- ・助け合うことの大切さを学ぶ

#### ④生活習慣との出会い

- ・団体生活をする中で約束ごとの大切さを学ぶ
- 1.挨拶をする 2.時間を守る 3.整理整頓

#### ⑤夢との出会い

- ・夢をもつことの大切さを学ぶ

ワタミグループの企業理念「地球上で一番たくさんのありがとうを集めるグループになろう」を具現化することを目的に、地域の高齢者や障がい者、消費者の方たちに、本業を通して社会貢献を行っています。

## 宅食事業の見守り



毎日22万人の日本各地のお客様に、手渡しでお弁当をお届けしています。高齢者のお客様が安心して暮らしていただくために、191カ所の市区町村の地域・行政と見守り協定を結び、配達を担当する「まごころスタッフ」が毎日声をかけています。



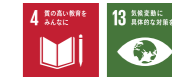
## お食事会



1999年から21年間にわたって、地域の障がいを持つ方たちを外食店舗に招待して「お食事会」を開催し、外食の楽しさを提供しています。社員が、サービスの原点であるホスピタリティを学ぶ機会でもあり、「相手の喜びを自分の喜びに変える」を実践しています。



## アースデイ



世界中で、地球の未来を考える「アースデイ」の代々木公園で開催されるイベントに、2010年から出展しています。子どもたちに、クイズや木工を通じて森からの恵みや、地球環境保全について伝える活動を実施。また、ワタミファームの有機野菜や加工品の即売は、とても好評でした。2019年はSDGsの啓発も行いました。



## ワタミグループが応援する社会貢献団体のご紹介

ワタミグループは、環境・社会・人に対してやさしい存在になることを目指し、「環境とともに・社会とともに・人とともに」をブランドテーマに掲げています。事業活動を越えた領域でもたくさんの「ありがとう」を集めるべく、社会貢献団体への支援を積極的に行っています。以下の3つの社会貢献団体へは、設立当初より、外食店舗や営業所に募金箱を設置、ワタミふれあいカードの利用金額1%の寄附、イベントや森林保全活動のボランティアスタッフとしての参加など、様々な形で継続的に関わっています。



3つの公益財団法人の代表理事 渡邊 美樹

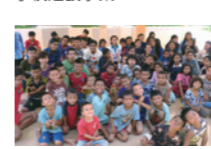
### 公益財団法人 School Aid Japan (スクールエイドジャパン)



School Aid Japanは、「一人でも多くの子供たちに、人間性の向上のための教育機会と教育環境を提供する」という目的のもと、カンボジアやバングラデシュに様々な教育支援事業を行なっています。



学校建設事業



孤児院運営事業

### 公益財団法人 Save Earth Foundation (セーブアースファウンデーション)



Save Earth Foundationは「美しい地球を子どもたちに残すため、限りある自然資源を有効利用し、持続可能な循環型社会づくりに貢献する」という目的のもと支援循環事業・森林再生事業を行っています。



生ゴミの堆肥化の様子



森林保全活動の様子

### 公益財団法人 みんなの夢をかなえる会



みんなの夢をかなえる会は、たくさんの方が様々な形で、社会を少しでも良くする夢の主人公になること、みんなの思いが集まり、大きな力となって、「みんなの夢があふれ「ありがとう」の飛び交う社会」を創っていくことを目指しています。



「実践経営塾」の様子



「みんなの夢AWARD9」の様子